

国際学会参加報告書

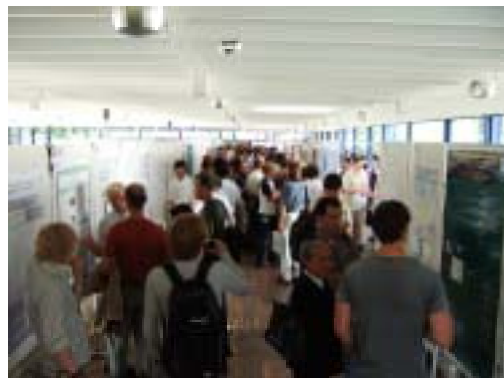
人間文化研究科 博士後期課程 複合現象科学専攻
放射線物理学研究室所属 1年 井上洋子

この度、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ -先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成- プログラムの支援を受け、7月25日(水)~31日(火)にドイツのフライブルグにて開催されました「ICPEAC 2007 -XXV International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions-」(通称:ICPEAC)に参加し研究発表を行いました。この国際学会は、光子・電子・原子・分子・イオン衝突に関する研究会です。

会議で、私は主に「イオン 原子衝突」、「イオン 分子衝突」分野の講演を聴講いたしました。各国で最先端の研究を行っている方々が選出され講演を行うので、どの講演内容も非常に興味深いものでした。講演の中で、特に印象に残ったものは、「キャピラリーを用いたマイクロビーム生成」に関する幾つかの発表でした。マイクロビームは主に癌治療で用いることを目標に研究が成されていますが、極小サイズで高密度のビームを保つには高い技術が必要な為に各国で盛んに研究が行われています。その為、講演では各国の独自の考え・手法で行われた研究を知ることが出来ました。私の研究室でもキャピラリーを用いたマイクロビームに関する研究が行われているため、これらの講演は非常に価値のあるものでした。

私は、「Charge Transfer Of Multiply Charged C, N and O Ions In Collisions With H₂ At Low Energies Below 1 keV/u」(訳:低速 C、N、O 多価イオン H₂ 衝突における電荷移行反応)という題目でポスター発表を行いました。ポスター発表の内容は、修士課程で研究していたテーマで、C、N、O 多価イオン衝突に関してN 多価イオン衝突のみがC、O 多価イオン衝突とは異なった反応をする為、その原因について究明しまとめたものです。発表の際には幾人かの方々から質問を頂きました。英語での対応は非常に困難でしたが、どの国の方も根気良く私の説明を聞いてくださり、とても嬉しかったです。しかし、スムーズに自分の研究に対して紹介・解説する為には、もっともっと英語力を身につけなければならないと実感しました。

最後になりましたが、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ -先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成- プログラムより国際学会参加支援をして頂いたお陰でこのような貴重な体験をすることが出来ました。心より感謝しております。ありがとうございました。



写真：ポスター発表会場の様子